

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています。

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。

CSR レポート

2011 Corporate Social Responsibility Report 2011

コベルシステム株式会社
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION





神戸港から神戸市街と六甲山系を望む
(写真提供: NPO 法人 六甲山の自然を学ぼう会)

コベルコシステム CSRレポート 2011

はじめに

コベルコシステムは、CSR活動を経営を支える大切なものとして位置づけています。持続的な発展を実現するためには、常にCSRを意識し、日々の企業活動で実践しなければなりません。CSR活動の実践と継続こそが、社会からの信頼をいただく道筋と考えています。本CSRレポートを通じて、ステークホルダーの皆様へ、コベルコシステムのCSR活動への想いを聞いていただき、「いい匂いのする「コラボレーション・パートナー」コベルコシステムをより深く理解していただくことを願っています。

本CSRレポートは、コベルコシステムのCSR活動の取り組みについて、ステークホルダーの皆様によりわかりやすく報告することを目指して編集しています。前回のCSRレポートは、従来から進めてきた個々の社会的責任を果たすための活動をCSRとして体系化し、その取り組みを紹介しました。2011年版は、ステークホルダーの皆様に対して、コベルコシステムが考えているマテリアリティ(大切に想う気持ち)を整理し、そのメッセージを軸に取り組みを報告しています。

報告対象期間: 2010年1月1日から12月31日の一か年の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯や、CSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

Contents

表紙: 六甲山に咲くランの花
(写真提供: NPO 法人 六甲山の自然を学ぼう会)

| | | | |
|-------------------|---------|--------------------|----------|
| トップメッセージ | 3 | ビジネスパートナー様とともに | 17 |
| ステークホルダーを大切に想う気持ち | 5 | 社員とともに | 19 |
| マネジメント・経営品質 | 7 | 地域社会とともに | 25 |
| お客様とともに | 9 | 2010年版アンケートフィードバック | 29 |

コベルコシステムのCSRへの取り組みについて

コベルコシステムは、2009-2011中期経営計画で掲げた4つの追求、「お客様に信頼される真のパートナー」、「他社との違い」、「プロフェッショナル人材」、「企業倫理の遵守と健全な成長」を推し進めていくために、CSRの考え方に基づいた種々の取り組みを行っていますが、このCSR活動を全社で展開するために、2009年に「CSR推進委員会」を設立しました。「CSR推進委員会」は、社長をオーナーとし、役員が委員長を務め、各部門から選出された「CSR推進委員」で構成しています。そして、「CSR推進委員会」が、全社のCSR活動方針の立案や、重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループ活動、社内外へのCSR情報の開示といったコミュニケーション活動を担っています。

2010年度においては、①コンプライアンスの強化と②環境保護対応の強化をフォーカスエリア(重点活動領域)とし、①については、全社的なWeb研修の実施や社員の意識調査等を、②については、環境に関する体制・窓口の整備や環境保護方針の見直し等を行いました。

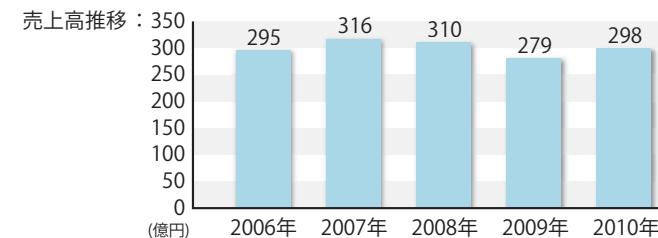
2011年1月には、コベルコシステムの「CSR推進活動方針」として、次の3点を決めました。

- ① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する。
- ② コベルコシステムの身の丈に合った、かつ、コベルコシステムならではのCSR活動を展開する。
- ③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる。

これらCSR推進活動方針に則り、2011年度は、リスクマネジメントの定着と社会貢献活動の方向づけをフォーカスエリアとしてCSR活動を推進する計画です。

コベルコシステム株式会社プロフィール

会社名称: コベルコシステム株式会社
 設立: 1983年10月1日(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
 1987年 7月1日(コベルコシステム株式会社に商号変更)
 代表者: 代表取締役社長 奥田 兼三
 株主: 日本アイ・ビー・エム株式会社 51%
 株式会社神戸製鋼所 49%
 資本金: 4億円
 社員数: 1024人(2010年4月1日現在)
 関連会社: コベルコソフトサービス株式会社
 本社: 〒651-0072 神戸市中央区脇浜町2丁目11番14号(神鋼ビル ネオエスト)
 URL: <http://www.kobelcosys.co.jp/>
 売上高: 298億円(2010年度)



CSRへの想いを社長に聞きました



■ まずは、単刀直入にコベルコシステムのCSR活動とはどのようなものでしょうか。

経済環境や社会情勢が急激に変化したことにより、ステークホルダー（お客様、社員、ビジネスパートナー様、株主、行政、地域社会）の当社に対する期待やニーズも大きく変わり、当社が果たすべき社会的責任も広がっています。当社では、2009年にCSR推進委員会を設立し、CSRへの取り組み体制を強化して、このような変化への持続的な対応を進めています。

具体的には、CS（Customer Satisfaction: お客様満足度）向上活動やES（Employee Satisfaction: 社員満足度）向上活動を始め、コンプライアンス、品質保証、情報セキュリティといった「誠実な企業活動」によりステークホルダーの信頼を向上させる活動や、社会貢献、環境保護など「社会との調和」を図っていく活動に、経営幹部と社員が積極的に取り組んでいます。

■ コベルコシステムでは「経営品質」にも取り組んでいますが、CSRとは異なる活動でしょうか。

当社は、2002年から「CS経営」、「全社員参加型経営」を根幹に据え、経営革新を地道に続けてきました。経営品質の基本理念は、顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和の4つの追求から構成されていますが、CSRは「社会との調和」のみに関連する活動ではなく、すべてのステークホルダーの信頼を向上させる狙いからも、経営品質そのものに関連する活動です。

経営を外部のステークホルダーの視点で向上させる活動がCSRであり、経営推進上のカテゴリーから向上させる活動が経営品質ではないでしょうか。

■ このたびコベルコシステムで書籍を出版しましたが、どういきかたで企画されたのですか。

その背景は、当社が取り組んできたアセットビジネスが注目を浴びてきたということです。特に「秘伝」と名づけたことで、いろいろなお客様に説明する機会が増え、問い合わせを受けたり、ヒアリングに来られた方もいらっしゃいました。こうした動きを出版社の方が聞きつけ、当社に出版の企画をもってこられました。当社としても、コベルコシステムのアセットビジネスを広く知っていただくよい機会だと考えました。

■ アセットとは直訳すると「資産」ですが、何か難しいことのように聞こえますが。

当社にとって重要な資産は人財（社員）ですが、それぞれの社員が日ごろの活動を通じて得た貴重な経験や知識、知恵などを共有、再利用できるようにして集約する。それをアセット化と呼び、当社はそのアセットを活用したアセットビジネスに10年近くにわたって取り組んできました。その成果をご紹介した書籍が「いい匂いのするITソリューション」です。

■ この本の題名になっている「いい匂い」とは何でしょうか。

これは、あるお客様から「コベルコシステムさんは、もの作りや品質へのこだわりがあり、ユーザー目線で考えてくれる。私たち製造業の会社と同じようないい匂いがします。」とっていただいた言葉から頂戴したものです。

本のエピローグにも書きましたが、いい匂いをお客様からの「信頼」、「期待」、「安心」の3つの匂いとして表現し、それらを感じて味わっていただける「いい匂いのするコラボレーション・パートナー」になることを目指したいと思えます。

■ ところで、昨年末にコベルコシステムは、「ひょうご仕事と生活のバランス企業」の表彰を受けました。

当社は、2009年に次世代育成支援対策推進法認定マーク「くるみん」の取得や、神戸市から「こうべ男女いきいき事業所」の表彰を受けています。今回の表彰は、兵庫県等が設置した「ひょうご仕事と生活センター」から、多様な働き方の導入や仕事と家庭生活の両立の促進など、仕事と生活のバランス実現を推進するために先進的な取り組みをしている企業・団体等に与えられたものです。

2010年度は当社を含め11社が表彰を受けましたが、当社は10年間継続してきた社員満足度調査や、社員主体の自主活動としてのKWC（Kobelco systems Work-life balance Community）活動、そして3T（楽しい、短時間、達成感）職場実現に向けた諸施策への取り組みが評価されたと考えています。この表彰を新たなスタートラインと捉え、これからもさまざまな制度作りや意識改革を進めていきます。

■ ワークライフバランスについてはどのように捉えればよいでしょうか。

少子高齢化が進み、共働きがますます増える社会において、ワークライフバランスは会社にとっても必須になってきました。ワークライフバランスは仕事と家庭を天秤にかけ、一方を削ってもう一方へ移し両立させるといったものではありません。出産、子育て、介護といったライフステージによって働くスタイルが変わりますが、それぞれのステージにおいて働き方を工夫して、効率的に力を発揮してもらえるようにできるかということです。

ライフステージによる働き方の多様性についても、ジグソーパズルのようにお互いの得手不得手を組み合わせることにより、パフォーマンスを高め、また社会環境や価値観の変化に対応できる企業になっていけると考えています。

社員の自主活動であるKWCや現場からも、ワークライフバランスに関するさまざまな提言、提案が出ており、こうした声を活かしていきます。

■ ワークライフバランスに関する会社としてのこれからの取り組みをご紹介ください。

会社としては、人事制度を改正しましたが、仕事のアサインや評価のあり方、キャリアプランなどに関する管理職研修を実施し、社員一人ひとりの個性や得意分野に丁寧にフォーカスしていく方策を導入しました。

心身ともに健康で、やりがいや充実感を持って仕事ができ、その業務の責任を果たしながら、家族や地域社会とのかかわりや個人個人のライフイベントに応じて働き方が選べるよう、舵取りを行っています。

■ 最後に、社会貢献活動について、どのようにお考えですか。

社会貢献活動については、身の丈に合った活動を行い、永く続けることが重要だと考えています。当社では、今までも六甲山のクリーンハイク、森の世話人活動やアニメーション神戸への協賛などを行ってきましたが、今後も社員の声を聴きながら継続、展開していきたいと考えています。

社会貢献活動をどう捉えるかは2通りあり、ひとつは当社の専門性や地域性を活かして社会への還元を図るものです。

もうひとつは社員に社会貢献活動に参画する機会を提供し、事業活動とは違った場での社会参画を体感してもらおう狙いです。先に説明した多様性にもつながるものであり、必要なことだと考えています。

代表取締役社長

奥田 兼三



ステークホルダーを大切に に想う気持ち (マテリアリティ)



経営品質向上プログラムの考え方を軸にマネジメントしています

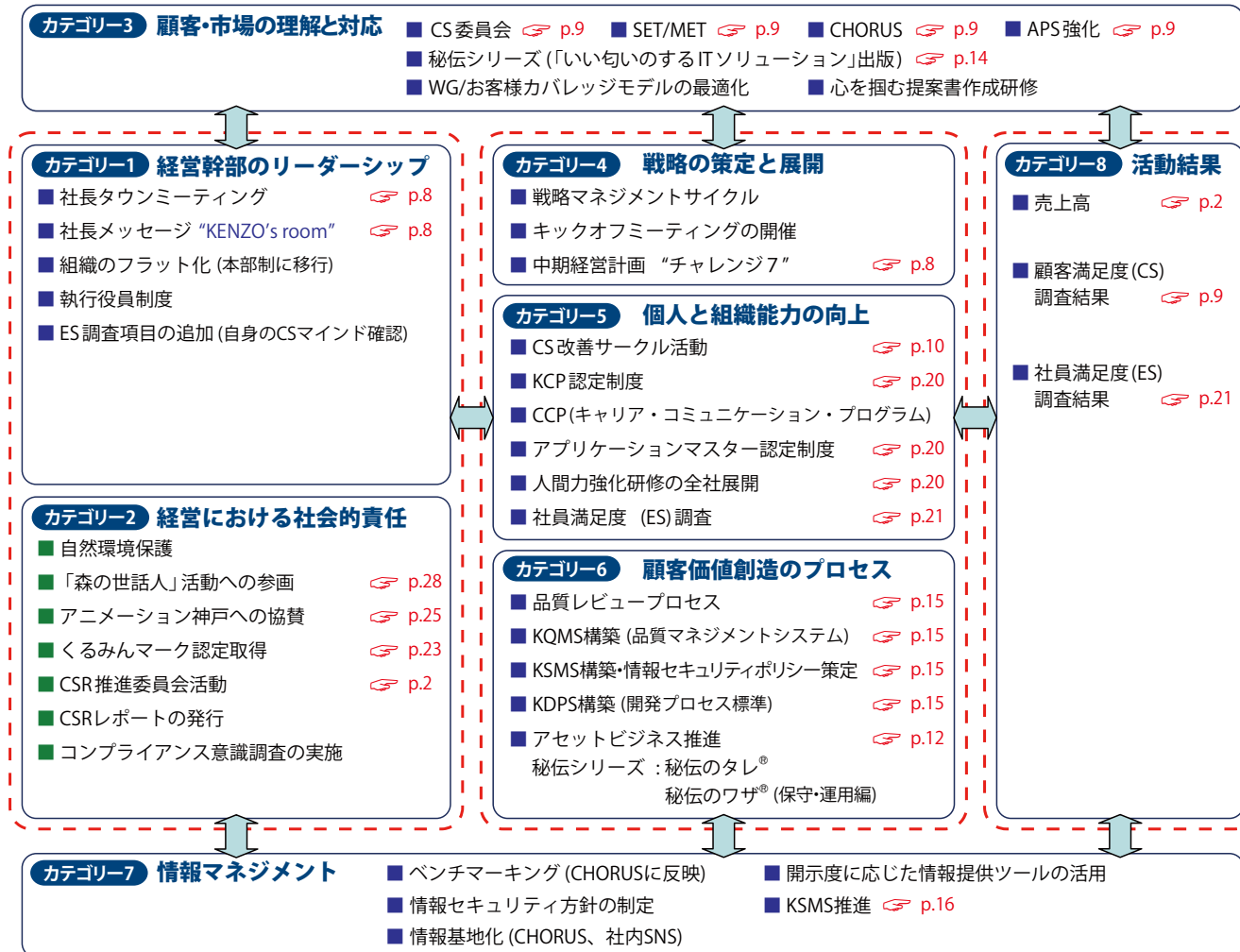
～4つの基本理念 ①顧客本位 ②独自能力 ③社員重視 ④社会との調和～

経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

コベルコシステムのマネジメントは、お客様満足の追求を経営の中心に置いて、組織のプロセスを変革するという基本的な考え方から行われています。「日本経営品質賞委員会」の経営品質向上プログラムの4つの基本理念(「顧客本位」、「独自能力」、「社員重視」、「社会との調和」)を追求し、その取り組み状況を8つの視点=カテゴリー(1. 経営幹部のリーダーシップ、2. 経営における社会的責任、3. 顧客・市場の理解と対応、4. 戦略の策定と展開、5. 個人と組織の能力向上、6. 顧客価値創造のプロセス、7. 情報マネジメント、8. 活動結果)で評価しています。経営品質の4つの基本理念の追求は、2009-2011中期経営計画「チャレンジ7」のベースとなっています。経営品質向上活動は、毎年のセルフアセスメントと第三者による経営品質アセスメントによって経営品質の状態を評価し、アセッサーから提言された改善コメントに従い、翌年の改善アクションを実施する経営品質向上サイクルに沿って進めています。

経営品質向上プログラムとアセスメントカテゴリー



主要な経営品質向上活動を紹介します。

※各カテゴリーのタイトルは、経営品質向上プログラムの名称を使用しています。

カテゴリー1 経営幹部のリーダーシップ

社長と社員との対話を通じて、社長の想いを社員に伝え、社員の声を直接聞くタウンミーティングを、各事業所において定期的に開催しています。

また、社長メッセージをイントラネットのページ「KENZO's room」で発信しています。

カテゴリー3 顧客・市場の理解と対応

CS委員会活動をお客様・市場の理解と対応の中心に位置づけ、取り組みを継続しています。CS委員会では、市場の変化への対応、お客様満足度調査で把握したお客様の声を検討し、お客様満足度を向上させる種々の仕組みや取り組みを実施し、営業活動情報の共有化と一元管理を図るシステムCHORUSを導入しました。コベルコシステムの知的資産をお客様に効果的に提供するために、それらをアセット化し、中でもより価値の高いアセットを秘伝シリーズ(秘伝のタレ、秘伝のワザ、秘伝のワザ(保守・運用編))としてまとめています。このアセットビジネスの取り組みを「いい匂いのするITソリューション」と題した本にして出版しました。



カテゴリー4 戦略の策定と展開

戦略マネジメントサイクルは、2009-2011中期経営計画「チャレンジ7」に沿って年度方針を作成し、これに沿って各部門目標を設定し、さらに個人目標まで展開しています。個人の業務目標は、上長との面談の場で、その達成度を確認し、必要に応じて上長のコーチングによりフォローする仕組みとしています。

部門目標の達成度は、バランススコアカード(BSC)により評価しています。

2011年度全社方針とスローガン

| | |
|--------|---|
| 中期経営計画 | 名称 チャレンジ 7 お客様の価値創造へ、「Challenge」 当社の存在感向上へ、「Challenge」 もうワンランク上へ、「Challenge」 業界一流レベルの目安として営業利益率7%台を目指す |
| | 方針 足腰(QCD)を徹底強化し、各組織の力を結集したお客様対応力によって、収益力を高め、存在感を示すことができる特色ある強い会社となって情報サービス業界を生き残っていく。 |
| 2011年度 | スローガン これからはものすごく差がつく時代 全社員の力を結集して 『全ての質』を高めよう!』 |
| | 方針 ①「他社との違い」でお客様に当社の存在感を示そう! ②ふたつのエンジンで3T(楽しい・短時間・達成感) 職場を実現しよう! スローガン もうワンランク上へ、飛躍する! |

カテゴリー2 経営における社会的責任

CSR推進委員会活動をコベルコシステムの社会的責任を果たす活動の中心に位置づけ、CSR活動を継続することで、社会から信頼される会社になることを目指しています。

2010年からは、CSRレポートを発行し、コベルコシステムの社会的責任に対する考え方と活動実績を明確にしています。

カテゴリー5 個人と組織能力の向上

コベルコシステムの財産は、人です。この考え方に基づき、「人材」を「人財」とし、複線型プロフェッショナル職制度と種々の人材育成の仕組みにより、能力向上を支援しています。

当社の多様な働き方を尊重したワークライフバランスの推進という先進的な取り組みが、2010年度「ひょうご仕事と生活のバランス企業」表彰につながりました。



ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰式

① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します

お客様の期待の一步先へ

お客様の成功に貢献して、パートナーとして永くお付き合いいただくことがコベルコシステムの想いです。昨今の経営環境はたいへんなスピードで変化しており、お客様はその中で生き残りをかけて変革を遂げようとされています。コベルコシステムは、その変化を先取りしてより速く進化し、ますます高まるお客様の期待に応えようとしています。

●APS (アカウント・プランニング・セッション)

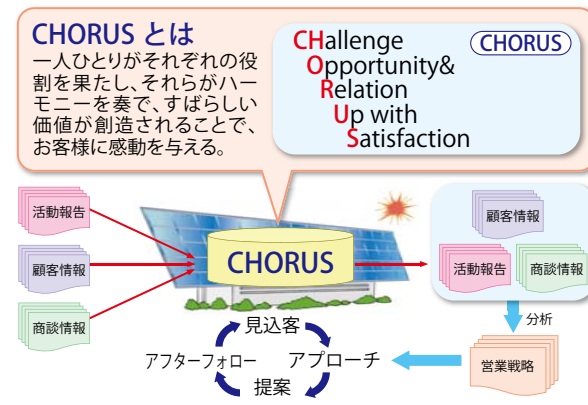
コベルコシステムでは、お客様について理解を深めることが重要と考えています。お客様をとりまく環境や課題、戦略などを理解し、どのように貢献できるか、そのためには誰がどのような活動をすればいいか、APSではマネージメントを含めてチームメンバー全員で知恵を出し、最適なソリューションの検討と活動計画を策定します。

●SET/MET

お客様の要望や期待を直接お伺いし、それに対する具体的な目標とアクションをお客様とともに決定します。これをSETと呼びます。コベルコシステムはこれに沿って活動し、その結果をお客様にご評価いただきます。これをMETと呼びます。お客様の期待をにんえられているか、にんえられていないなら、それはなぜか、どうすればいいかを考えて実行することで、お客様との信頼関係を構築し、お客様の成功に貢献していきます。

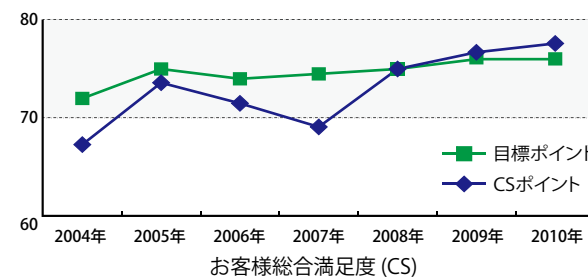
●CHORUS

お客様を深く理解し、そのニーズに的確に応えていくには、お客様に関するさまざまな情報を全社で共有して活用することが重要です。「お客様」という切り口で、これをサポートするシステム「CHORUS」を構築し、コベルコシステムの情報基地のひとつとして活用しています。



お客様にご満足いただくために

お客様の満足度向上(CS)の観点から、コベルコシステムの経営課題を共有することで全社レベルの問題に対して継続的かつ迅速な行動をとるために「CS委員会」を毎月開催しており、2010年12月で86回を数えました。「お客様満足度調査」の結果をベースに、お客様にお届けする価値の最大化に向けて活動しています。

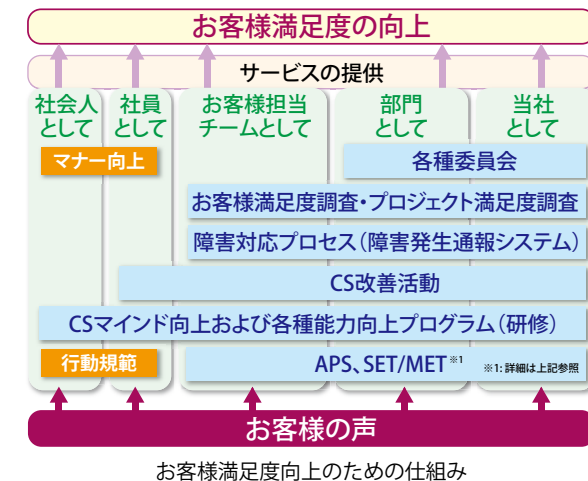


●お客様満足度調査

お客様のご満足度やご評価を今後の活動に活かすため、毎年、お客様にアンケート調査をお願いしています。営業活動、SEの活動、サービスや成果物、事務処理などの質問項目への評価とコベルコシステムの改善点など、忌憚のないご意見をいただきます。プロジェクトごとに、それを分析して改善アクションに展開し、その進捗状況をお客様と情報共有していきます。ここ数年の総合満足度は上向きですが、まだまだ厳しい指摘もいただいており、これらの中にコベルコシステムが成長するために乗り越えなければならない壁が隠されていると考えています。

2010年の改善活動

- ① 組織改編(ビジネスソリューション事業の発足)
- ② 品質のさらなる向上
- ③ プロジェクトセキュリティ管理プロセスの整備
- ④ プロジェクト満足度調査の改訂
- ⑤ 営業プロセス支援グループの新設



お客様の声

2010年のお客様満足度調査でいただいたコメントから

- 「こちらの要求に対してできること、できないこと、できない場合でもどのレベルまでは実現可能かをはっきりと提案してくれるので、こちらの判断に迷いがなく決められました」(化学M社様)
- 「コベルコシステムの提案が当再構築プロジェクトの標準になったことが多くあり、その点は満足すると共に感謝します」(機械M社様)
- 「メンバー間の知識バランスのせい、か、負担に偏りがある」(保険S社様)
- 「現場に優秀な人が多々おられるのは認識しているが、若干現場に頼り過ぎている傾向があり、バックオフィスの入り方が弱いような気がする」(機械M社様)
- 「各担当者はそれぞれのシステムを知っているのですが、当社の運用上では集まってひとつの視点から、一部最適、全体不適を避けるために、もう少し横断的な運用情報、ソリューションの情報があると助かります」(設備保全K社様)

CS意識のワンランクアップ

コベルコシステムの事業のベースは人財です。一人ひとりがお客様視点を持ち、お客様のご期待の一步先に行く気概を持って初めて、それが実現していきます。

CS意識のワンランクアップに向けて、2010年は以下の活動を実施しました。

●若手社員によるCS合宿討議

「社員一人ひとりの“腑に落ちた、腹の底から”のCS意識の掘り下げ、浸透を狙い、若手メンバーによる合宿討議を実施しました。合宿での集中討議を通じて、納得ベースで“CS意識の浸透を図る”と共に、参加者から提起された課題・提言を、今後の施策に展開しています。



若手社員によるCS合宿討議

●同業他社とのCSに関する情報交換

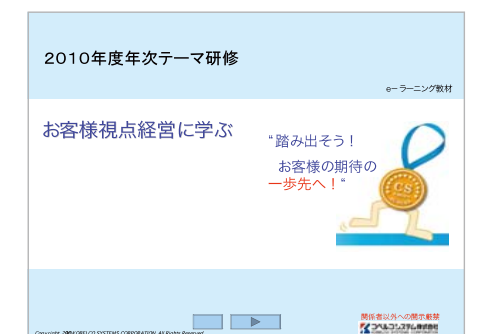
お客様満足度業界トップクラスの数社とCS活動に関する情報交換を行い、優れた施策や取り組みをお伺いしました。コベルコシステムのお客様満足度向上活動の一層のレベルアップに役立てていきます。

●CS改善サークル活動

2010年も61のテーマに関して、CS改善サークル活動に取り組んできました。この活動を通じて、問題意識を持ち、事実を検証し、原因を見極め、真に効果的な対策を立案・実施できる能力の向上も図っています。自部門中心の活動から、他部門と連携した活動へ、さらにお客様と連携した活動へと活動範囲を拡大し、お客様視点をより多く取り込んだ活動に成長しています。

●e-ラーニング

社員一人ひとりがお客様中心での活動の重要性を再認識する目的で、「お客様視点経営に学ぶ」と題するe-ラーニングを全員が受講しました。



e-ラーニング

CSスローガン

毎年、社員からCSスローガンを募集し、その中から社員全員が投票してCSスローガンを決めていきます。

2010年は、「踏み出そう! お客様の期待の一步先へ!」をCSスローガンとして、CS意識の向上を図りました。

また、2011年のCSスローガンは、「届けよう 今よりもっと “いい匂い”」が選ばれました。



② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と 先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します

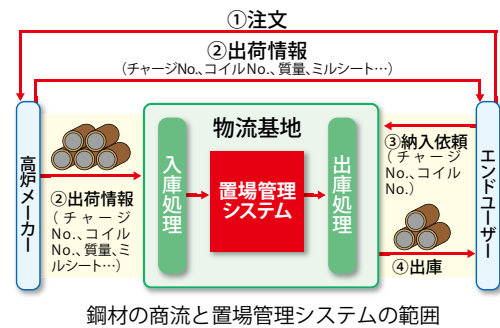
お客様事例 ～浅井産業サービスセンター株式会社様 置場管理システム～

「秘伝のタレ」の中に「置場管理システム」があります。
これは神戸製鋼グループでの実体験をもとに生まれたシステムです。

この置場管理システムを浅井産業サービスセンター株式会社様にご採用いただきました。

浅井産業サービスセンター株式会社様は、1922年に鉄鋼専門問屋として創業された浅井産業株式会社様のサービスセンター部門が独立して1980年に設立されました。今回、置場管理システムを導入した同社衣浦事業所は、約1,000種の鋼材(線材、棒鋼)を月間10,000～12,000トン取り扱っておられます。属人的な作業を減らすことで誤読や誤記の削減、オペレーション効率の向上、スペース効率の向上を図ると共に、システムの高度化、時代のニーズに対応することを目的に置場管理システムの導入を決定され、鋼材の入荷から出荷までのすべてがシステム上で管理されるようになりました。

バーコードで一元管理されることで、「挿し札」(針金にタグがついた倉番)がなくなり、すべての鋼材が決められた位置に整然と山積みされ、スペース効率が向上しました。倉庫も以前に比べて綺麗になったと言われるそうです。属人的なミスも激減しました。また、現場での事務作業が減って時間的余裕が生まれたため、現場と事務所とのコミュニケーション機会が増えて一体感が高まったそうです。当初、ハンディ端末やバーコードを使うことに抵抗のあったベテランの方々からも「便利じゃないか」と意識が変わり、やがてシステムの改善要望や提案が出るようになってきたそうです。



鋼材の商流と置場管理システムの範囲



衣浦事業所



事業所内部

お客様の声

浅井産業サービスセンター株式会社 代表取締役社長 上野 岳久 様

「私達は、鋼材という重量物を『安全に、正確に、高い品質を劣化させることなく、お客さまにお届けする』ことを使命として、倉庫を運営しています。倉庫の管理は単純な作業なので、付加価値をつけにくいところ。いかにシステムチックに管理できるか、それに尽きると思います。私たちにとって、『秘伝のタレ』はいい匂いがするとは思っていますが、味についてはまだ味わっている最中といったところでしょうか。現場での効果は明白に出ているところもあり、倉庫の使い方はきれいになりましたし、置場の使用効率は高まりました。

作業性も上がり、細かいデータがユーザーの納品書に反映されるようにもなりました。トラブル発生時にその内容が迅速に確認、対応できたという実績も生まれています。また、バーコード読み取りというツールによって正確性の向上と効率化も実現しました。作業員の負担が軽くなったことで、商品を見る機会の増加につながり、保管中で起きる錆びの発生や結束のゆるみ、曲がり、キズなどの品質異常発見行動にもつながっているようです。

安全面においても、作業員の材料探し行動が減ったことは、重量物が空中を移動する倉庫内の危険度低減につながり、大きく改善できていると考えております。ただ、もう少し運用してみて費用対効果が明らかになるまでは、本当の味は分からないのかも知れませんね。そのためには、もっともこのシステムを使いこなして、日々の地道な改善活動を積み重ねていくことしかないと考えています。」



新しいサービスの提供

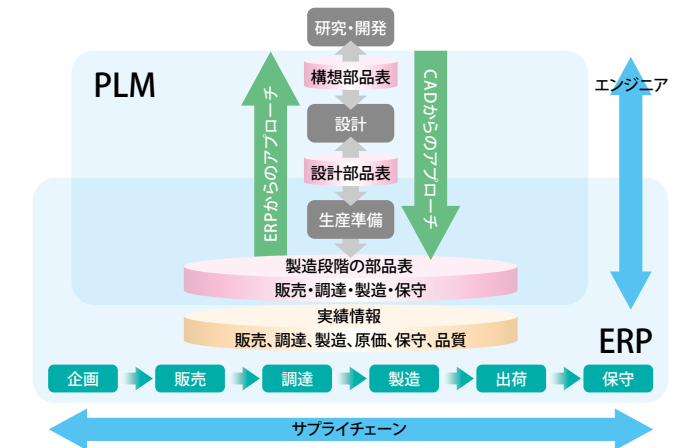
変化の激しい環境に対応するため、IT新技術にも目を光らせながら、コベルコシステムの価値が活かせるサービスの提供に心がけています。

●クラウドサービスセンター設立によるサービス

2010年1月にクラウドサービスセンターを立ち上げました。まずは、神戸製鋼グループ向けのプライベートクラウドサービスとして情報漏えい対策に向けたクライアントセキュリティサービスと資産管理サービスを展開しています。コベルコシステムが実績を積んできたデータセンターやネットワークの強みを活かして、神戸製鋼グループへさらに付加価値の高いサービスを検討しています。また、この神戸製鋼グループでの経験を基に、他のお客様にも安心してお使いいただけるサービスの提供を目指しています。

●PLM (プロダクト・ライフサイクル・マネージメント) 分野へ

PLMは、「製品ライフサイクル管理」と呼ばれ、製造業において、製品にかかわるすべての過程(企画・開発から設計、調達、製造、出荷、出荷後のサポートやメンテナンス、生産・販売の打ち切りまで)を包括的に管理することで、開発期間の短縮、生産過程の効率化、タイムリーな市場投入を実現し、企業収益の最大化を図ることが期待できます。コベルコシステムでは、従来からCADからのアプローチを行ってききましたが、2010年8月にERP本部にPLMプロジェクトグループを設置し、ERPからのアプローチも開始しました。お客様の状況に合わせて双方からの構築を検討することで、お客様にとって最適なソリューションをご提供していきます。



ダイヤモンド社から本を出版しました

2010年8月、「いい匂いのするITソリューション」～社内の知恵を集めたら「秘伝のタレ」と「秘伝のワザ」ができあがった!～と題した本を出版しました(ダイヤモンド社 奥田兼三・氏家啓喜・山田義次共著)。
長年現場で培った業務経験やノウハウなどの知的資産を再利用可能な形にし、部門を越えて共有することでお客様により高い価値をご提供するアセット・ビジネスへの取り組みを紹介しています。

【いい匂いのするITソリューション】 ★日本図書館協会選定図書★
～社内の知恵を集めたら「秘伝のタレ」と「秘伝のワザ」ができあがった!～

ITなのに秘伝?秘伝なのに共有?
ナレッジ・エンタープライズを目指す会社の本音がここにある。
中堅ITソリューションベンダーが生き残り成長を掛けて取り組んだ、アセットビジネス推進の歩みとその仕組みづくりとは。

著者:コベルコシステム株式会社 奥田兼三、氏家啓喜、山田義次 発売:ダイヤモンド社

「いい匂いのするコラボレーションパートナー」へ

「いい匂いのするITソリューション」の本の中で以下のように結んでいます。

私たちを支えてくださっているのは、お客様に他ならない。お客様があってこそこのコベルコシステムなのである。
「いい匂いのするコラボレーションパートナー」であり続けるために、お客様へ新しい価値を生み出す企業文化をコベルコシステムという企業の風土にまで変えていこうと、今改めて心に強く誓っている。
「健全性を徹底的に追求し、社会的責任を果たす“信頼”の匂い」
「積み重ねた経験とノウハウに基づく、新たな価値提案が届く“期待”の匂い」
「確かな技術とスキルに基づき、価値創造を確実に実現できる“安心”の匂い」
これからもこの「いい匂い」を多くのお客様に感じていただくため、たゆまぬ努力をしたい。

③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

品質向上活動に終わりは無い

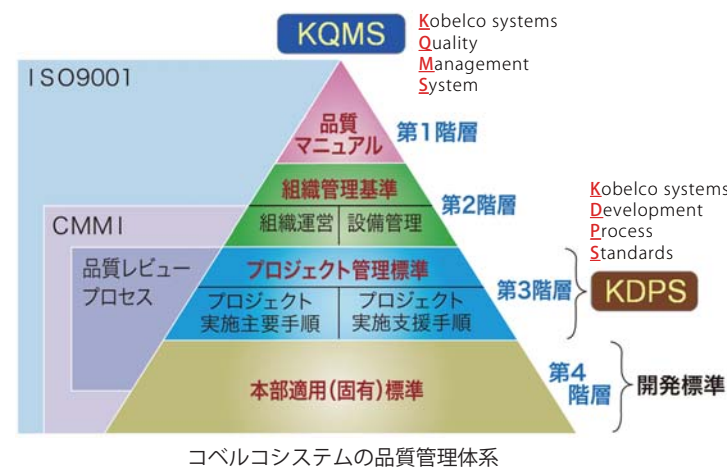
コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001にCMMIの考え方を取り入れた品質マネジメントシステム「KQMS」を構築、運用しています。

さらに、この「KQMS」の下にシステム開発・構築のプロセス標準である「KDPS」、個々のサービスプロジェクトの状況をレビューする「品質レビュープロセス」といったコベルコシステム独自の仕組みを構築しています。

- ISO9001：品質マネジメントシステム (Quality Management Systems)
- C M M I：統合能力成熟度モデル (Capability and Maturity Model Integration)
- K Q M S：品質マネジメントシステム (Kobelco systems Quality Management Systems)
- K D P S：開発プロセス標準 (Kobelco systems Development Process Standards)

●品質マネジメントシステム「KQMS」

全社で共通のQ(品質)、C(コスト)、D(進捗)の管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況をKQMSサポートシステムで一元管理をしています。これによりQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化を実現しました。さらに継続的改善活動を行うことにより、組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

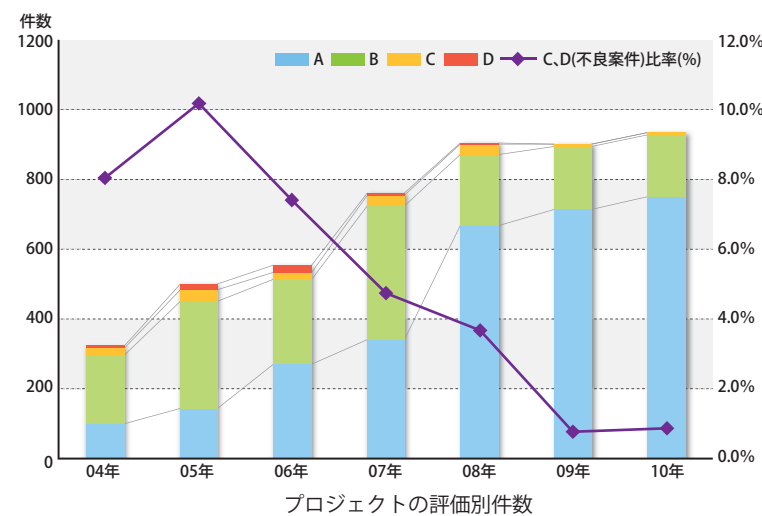


●開発プロセス標準「KDPS」

KDPSは、システム開発・構築等のプロセス改善モデルであるCMMIの考え方を取り入れ、コベルコシステム独自の標準として組み立てたものです。プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させており、管理作業の効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。

●品質レビュープロセス

コベルコシステムでは、個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で実現できることを確実にするために独自のレビュー活動を行っています。そのため、レビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象としており、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定を行うために、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。



これらの活動により、不良案件(予定に対するQCD異常が認められる案件)の比率は年々減少し、2008年には当初の目標であった4%以下を達成しました。しかし、2010年は前年比微増しており、「品質向上活動に終わりは無い」ことを再認識させられます。

今後も引き続き「お客様の満足」確保に貢献する活動を追求していきます。

セキュリティなくしてビジネスなし

コベルコシステムは、お客様のシステム開発やシステム保守・運用において、お客様の重要情報を取り扱っています。

万一これらの情報漏洩が発生した場合は、お客様および社会に対して大変なご迷惑を掛けることになるため、情報及び情報システムをさまざまな脅威から防御することが必要不可欠です。

コベルコシステムでは、情報を扱うすべての従業者、ビジネスパートナー様およびその他関係者がそれぞれの役割の中で遵守すべき基準として情報セキュリティポリシーを策定し、それに準拠した実施手順を定め運用することで、必要な情報セキュリティを確保しています。

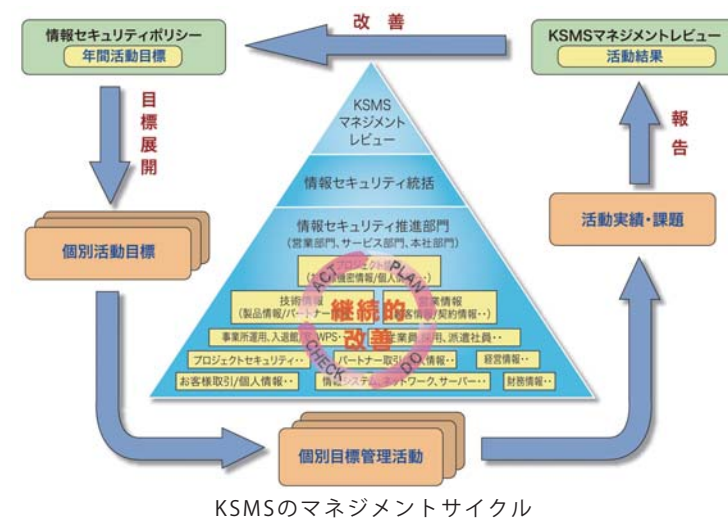
「セキュリティなくして、ビジネスなし」を一人ひとりが胸に刻んで行動しています。

なお、個人情報保護については、2000年にプライバシーマーク認定を取得し、その後継続して更新しています。

●コベルコシステムセキュリティマネジメントシステム「KSMS」

情報セキュリティの水準を適切に維持するためには、状況の変化や情報技術の進歩に応じた対策の変更が重要です。さらに、情報セキュリティポリシーの見直しを定期的に行い、必要に応じて項目の追加や内容の充実を図りながら、将来にわたってその適用性を維持することも必要です。

コベルコシステムでは、これらをKSMS (Kobelco Systems Information Security Management System) として定め、継続的なPDCAにより、情報セキュリティにおける対策や適用性の維持を図っています。

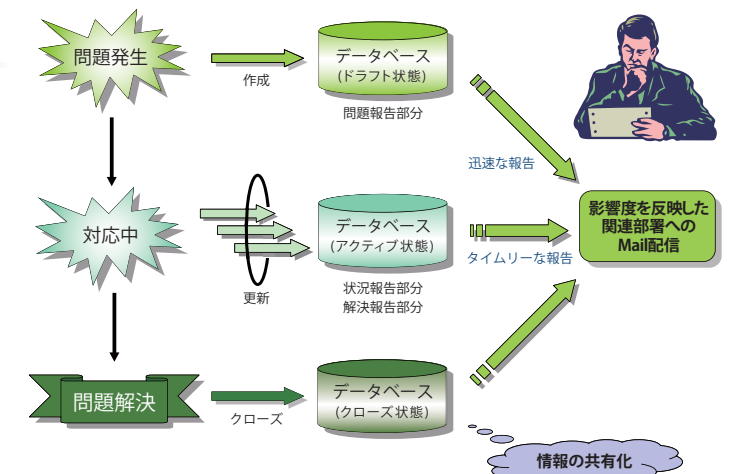


2011年 KSMS年間活動目標

- (KSMS年間活動目標)
 - 重大事故・事件 発生件数：0件 継続
- (重点目標)
 - ▶PCセキュリティ強化
 - ⇒ 不正な侵入・情報流出防止のための、利用PCの特定及び関連設定の徹底
 - ▶プロジェクトセキュリティ強化
 - ⇒ プロジェクト実行上での情報セキュリティリスクの認識と、適切な対応の徹底・定着化
- (継続目標)
 - ▶個人情報保護強化・促進
 - ⇒ 個人情報保護活動の継続により、セキュリティ管理活動をワンランクアップ
 - ▶物理セキュリティ強化
 - ⇒ すべての従業者のワークスペースにおけるセキュリティの維持を徹底
 - ▶研修・Awareness強化
 - ⇒ すべての従業者への情報セキュリティ研修実施
 - ▶委託先セキュリティ管理強化
 - ⇒ 業務委託先(一括、準委任問わず)の、プロジェクトセキュリティ管理要件の徹底

障害発生通報システムのリニューアル

お客様の業務遂行を支えているシステムの障害に際して、お客様への影響をできる限り小さくすることを念頭に、緊急障害通報システムをリニューアルしました。従来の「障害報告」のシステムではなく、「障害が発生した段階」でいち早く関連部門/マネジメントへ障害の発生を伝える(発生通報)システムにすることで、情報を共有し必要なアクションを迅速に取れるようにしました。障害の回復を最優先に行いますが、回復後は原因、対策を追究し、お客様にその内容をご確認いただくこととしています。



ビジネスパートナー様と健全でWin-Winの関係を築く

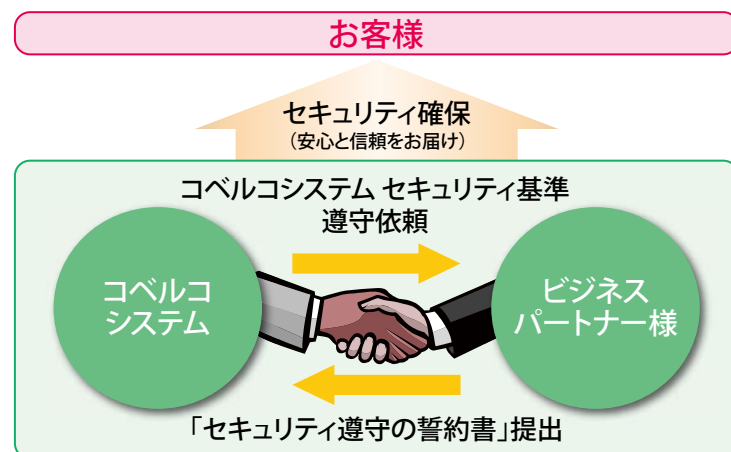
- ① 公正で CSR に基づいたパートナーシップを維持します
- ② 当社との協業を通じてビジネスパートナー様とともに経営基盤、経営品質の向上を目指します

一体となってセキュリティを確保する

コベルコシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、コベルコシステムまたはコベルコシステムのお客様先に常駐し業務に従事していただく場合がありますが、コベルコシステム社員と同様の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

具体的には、コベルコシステム社員と同様のセキュリティ研修内容を、ビジネスパートナー様の対象社員に理解していただくよう、協業に関する責任者の方に依頼し、ビジネスパートナー様各社独自の方法で研修を実施していただいています。また、ビジネスパートナー様の対象者全員が履修し、その内容を遵守することを約束していただくため、「セキュリティ遵守の誓約書」をご提出いただいています。

この研修は毎年内容を更新し、ビジネスパートナー様の対象社員にも継続して履修していただくことにより、セキュリティに関するコベルコシステムの遵守事項の浸透を図り、結果としてお客様のセキュリティ確保につなげる認識のもと、活動しています。



適正取引の推進

ビジネスパートナー様にご協力いただく際の委託方式には数種類がありますが、コベルコシステムでは、それぞれの方式に合わせた発注・進行管理を推進しています。

その推進のために全社横断型の「適正取引推進委員会」を設け、具体的なガイドをe-ラーニング等により社内にて徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターを送付、アンケート調査の実施、説明会・講演会の開催、個別訪問などを通じて協力をお願いをしています。また、地方労働局との定期的なコミュニケーションも図っています。

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

最近の主な取り組みとしては、以下があります。

- ① ビジネスパートナー様に提供している作業スペースや機器の取り扱いの明確化
- ② 請負契約における委託業務内容の明確化・文書化
- ③ ビジネスパートナー様における適正取引の推進状況の調査



適正取引に関する研修実施(e-ラーニング)



ビジネスパートナー様向け講演会の開催

ビジネスパートナー様のPDCA活動を支援する

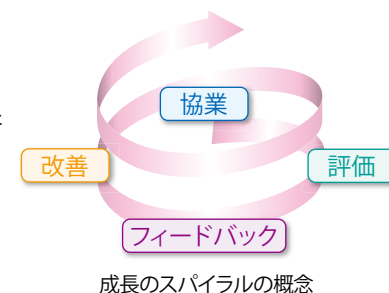
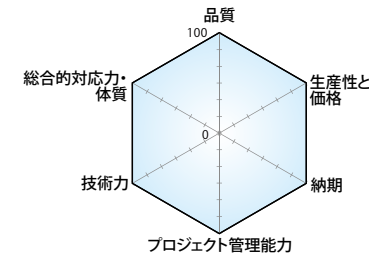
コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の評価とフィードバックを実施しています。評価は、業務委託先の「コンプライアンス遵守状況に関する評価」と「業務遂行能力(プロジェクト遂行能力)評価」のふたつの観点から総合的にを行っています。

「コンプライアンス遵守状況に関する評価」では、会社としてのコンプライアンスへの取組みを以下のような項目で確認しています。

- ① コンプライアンスに関する専任者の設置等
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的認証の取得
- ⑤ 組織的な安全管理、人的安全管理、物理的安全管理、技術的安全管理

「業務遂行能力評価」は、実際のプロジェクトでビジネスパートナー様と協業したコベルコシステムのプロジェクトマネージャーが以下の評価項目で評価しています。

- ① 品質
- ② 生産性と価格
- ③ 納期
- ④ プロジェクト管理能力
- ⑤ 技術力
- ⑥ 総合的対応力・体質



ビジネスパートナー様の評価の観点

各ビジネスパートナー様には、さらなるレベルアップを図っていただけるよう、上記の評価結果をフィードバックしています。

ビジネスパートナー様への感謝

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様への感謝として、年に2回、プロジェクト遂行部門からの推薦を受け、貢献度の高かったビジネスパートナー様への表彰を行っています。

ビジネスパートナー様の声

株式会社サイプレス・ソリューションズ 代表取締役社長 三和一善様

株式会社サイプレス・ソリューションズは、創業以来約40年にわたり、関西圏・首都圏を中心に展開しているシステム会社です。貴社設立以来永きにわたりお取引を頂戴しており、各事業所には多数の当社社員が常駐勤務し開発、保守・運用に携わらせていただいております。

その中で、貴社がCSRの一貫として注力されておられる情報セキュリティにおいては、KSMSという情報セキュリティマネジメントシステムを構築され、その機能を全社の技術および品質を統括する部門におき、目標管理活動の実績把握・確認と課題の抽出はもとより、情報セキュリティに関する最新情報の提供、啓蒙・教育に努めておられます。それを自社のみならずビジネスパートナーに求めることにより各社のレベルアップにも非常に有益かつ、ひいてはソフト業界全体のレベルアップに繋がるものと確信しております。

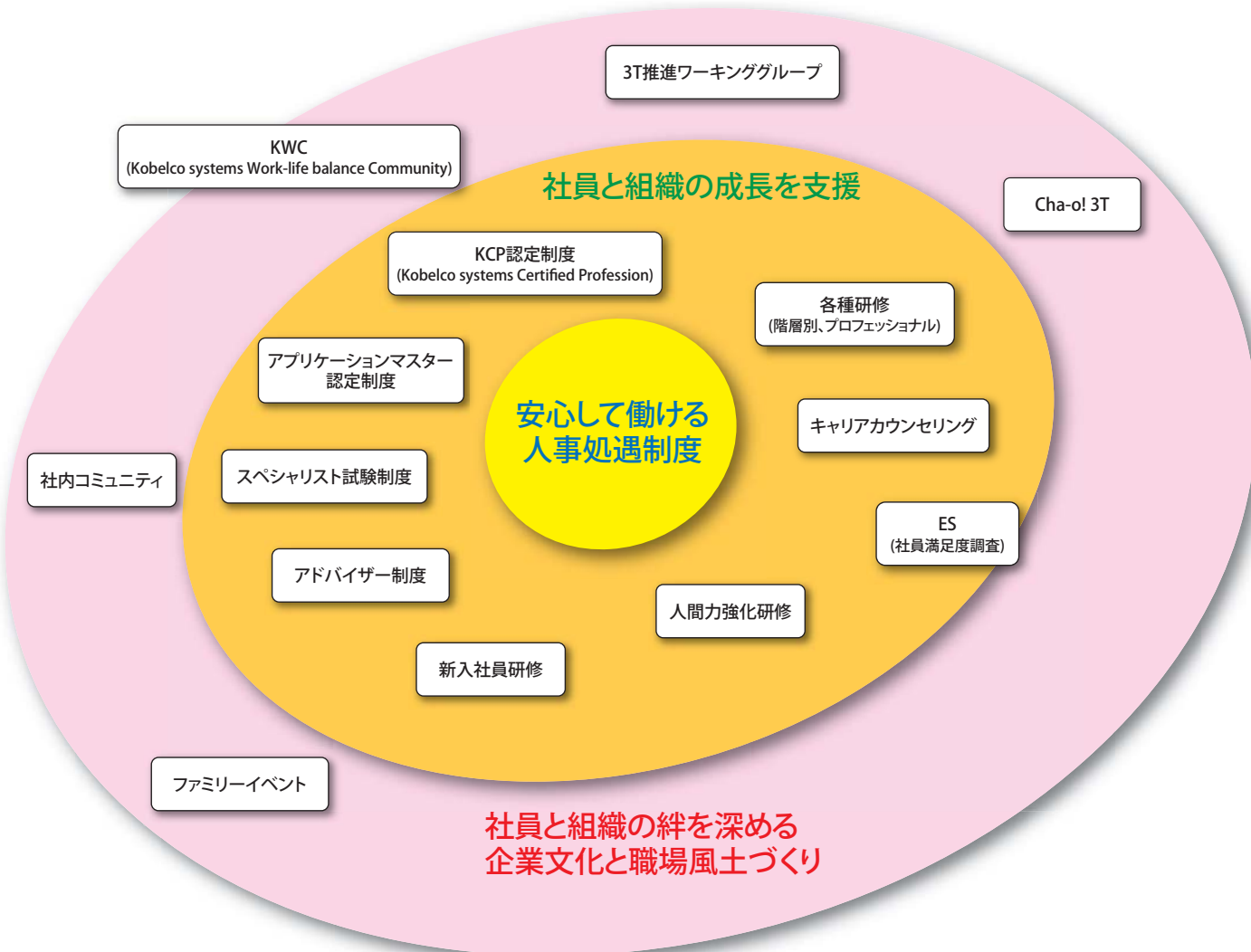
今後、益々パートナー各社が更なるWin-Winの取引関係を構築し、ユーザーへの高付加価値の提供と高品質化が実現できるよう、ご指導いただけることを期待しております。



社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である

～3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現～

① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します



3T 職場の実現に向けた推進エンジン

3T職場の実現を目指しています

コベルコシステムは、「社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である」を人事基本理念に据えています。そのためには、社員が働き甲斐を高めてハッピーでなければならないと考え、「イキイキ・ワクワクと仕事ができる会社」であり続けたいと願っています。コベルコシステムでは、イキイキ・ワクワクと仕事ができる要素を「楽しい」、「短時間」、「達成感」が満たされることと定義し、それぞれの頭文字から「3T職場の実現」を全社スローガンに掲げ、さまざまな取り組みを展開しています。具体的には、安心して働ける人事処遇制度を中核に据え、社員と組織の成長を促し、支援する各種認定制度や研修機会を提供しています。また、これらを有効に活用していくためには、会社と社員および社員間の絆を強め、協力し合う企業文化や職場風土づくりが重要であると考えています。そこで、社員の家族も含めた社員間の絆を深めるイベント開催や、社員の生の声を聞く社員満足度調査を継続して実施するとともに、社員自身が「自らマインド」を持って、同好会やコミュニティーの運営などの自主活動を展開しており、会社も積極的に支援しています。このように、コベルコシステムでは会社と社員の両輪による「3T職場」の実現を通じて、ワークとライフがバランスする活気に満ち溢れた企業文化を醸成し、技術力・人間力・そして情熱あふれる自律した知的プロフェッショナル人財の集団づくりを目指しています。

複線型プロフェッショナル職制度

コベルコシステムでは、社員一人ひとりが、自分の将来に向けたワークキャリアを考え、プロとしての自覚を持ち自律的にスキルアップしていくための基本的な仕組みとして「複線型プロフェッショナル職制度」を採用しています。特に、お客様と接する職種はスペシャリスト認定を条件として昇格する運用にしています。入社後の2年間は、自律したプロフェッショナルとしての成長を効果的に促進するため、マンツーマンで成長を支援する「新人早期育成アドバイザー制度」を導入しています。

また、お客様の経営課題解決への期待に的確に応えられるように、お客様の業務や業界動向について計画的かつ早期に習得し、かつ熟知することを狙いとして、「アプリケーションマスター認定制度」を設けています。業務分野は8種類、知識・スキルに応じてプラチナ・ゴールド・シルバーの3段階のレベルで認定する制度です。さらに、ハイレベル人材の育成と登用を狙いとして「KCP (Kobelco systems Certified Profession) 認定制度」を設けています。各職種における目指すべき人材像を具体的にイメージさせて、社員のキャリア形成を進めています。

| 社員級 | ライン | セールス | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | ITスペシャリスト | 経営スタッフ | 事務 |
|--------|----------|--------------------|---------|-------------|-----------|--------|------|
| G1 主管 | 本部長/部長 | コベルコシステム認定プロフェッション | | | | スタッフ | 担当部員 |
| G2 副主管 | 部長/G長・室長 | セールス | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | ITスペシャリスト | | |
| G3 専任 | G長・室長 | セールス | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | ITスペシャリスト | | |
| G4 主任 | | セールス | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | ITスペシャリスト | | |
| G5 副主任 | | スペシャリスト試験 | | | | スタッフ | 担当部員 |
| G6 先任 | | セールス | | プロジェクトマネジャー | ITスペシャリスト | | |
| G7 初級 | | セールス | | プロジェクトマネジャー | ITスペシャリスト | | |

さまざまな人財育成のしくみ

コベルコシステムでは、人財育成の仕組みとして、複線型プロフェッショナル職制度と連動し成長度合いを確かめるスペシャリスト試験制度をはじめとする各種の認定制度、日々の業務活動を通じて自己成長を認識していく目標管理制度、知識・技能を習得するための体系的な教育研修、成長を計画的、組織的に促進する育成ローテーション等を設けています。中でも、教育研修は、階層別研修に代表される全社員共通のものごと各事業部門特有のものごと大別され、その手段も、eラーニング、集合教育、教育出向等、研修目的に応じた形態でなされ、そのメニューも豊富です。最近、注力しているものとして「人間力強化研修」があります。この研修は、真に専門的知識・技能を發揮するためには、人との関わりにおけるヒューマンスキルが重要との認識から、そのさらなる向上を図るもので、全社員が受講するメニューのひとつに加えました。この研修では、社外講師に頼らず、社内講師(ファシリテータ)を10名余り養成して研修を実施しており、受講者からも高い評価を得ています。

キャリアカウンセリングを開始しました

コベルコシステムでは「キャリアカウンセリング」を2010年から本格的に開始しました。これは、専門家(キャリアコンサルタント)の力を借りて、広くライフキャリアの観点も見据えてコベルコシステムでのワークキャリアを捉えることで、社員個々の能力向上、人間としての成長を支援することを狙いとしたものです。数多くある人財育成制度・仕組みを活かしながらも、将来に対する不安や迷いが生じた際に、心置きなく相談できる環境があることは、自己を見つめ直し、確たる目的意識と目標を再確認する上で、有効な手段となります。特に、遠方への転勤者、中途採用者、ビジネスニーズから長期間に亘ってお客様先に常駐する者など、通常より悩みが多くなる社員に対しては、より積極的にカウンセリングを受けることを奨めています。社会から預かった貴重な人財が、その個々の能力を遺憾なく發揮し、コベルコシステムへの貢献、社会への貢献を果たし、より良いワークライフバランスを実現できることを目指しています。

社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である

～3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現～

②社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります

3T推進ワーキンググループ

3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現を目指す全社横断的な推進役として、社長をオーナーとする3T推進ワーキンググループを2010年11月に発足しました。各部門から選出された3T推進責任者により、3T職場を実現していくためのさまざまな課題を現場の実態を踏まえて発掘し、解決に向けた提言を行うため、活動を始めています。ワーキンググループの活動内容はイントラネットに公開し、3T推進責任者が現場の旗振り役として広く社員の意見を吸い上げて全社一丸の活動となるよう努めています。



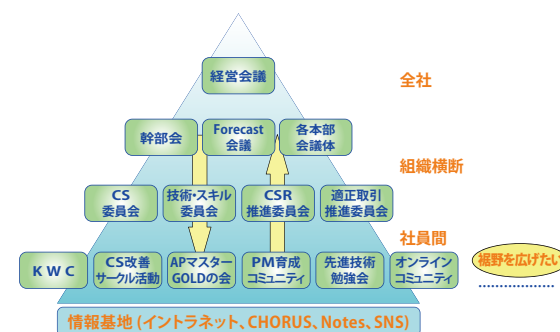
Cha-O! 3T

3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現に向けて、職場レベルで取り組んでいる活動を紹介し、他の職場に横展開するため、社内広報誌「TRY Jouryal(トライ・ジャーナル)」の中で「Cha-O! 3T」のコーナーを設けて紹介しています。「Cha-O! 3T」とは「3T職場の実現に向けてチャレンジ(Cha)する部署や人を応援(O)する」を意味するキャッチフレーズです。これまで部門間・世代間のコミュニケーション促進を目的に合宿形式で実施している「ベテラン社員・若手社員交流会」やES向上を目的とした「情報交流会」、昼休み終了のチャームと同時に開始する「3分間ミーティング」など、主に社員間のネットワーク作りも兼ねた活動を紹介してきました。多くの取り組みを紹介することで、3Tが企業文化に根ざすことを目指しています。



KWC活動 - 進化の軌跡 -

2003年に女性社員の活躍を支援する全社横断の自主活動として「Kobelco systems Women's Committee(略称: KWC)」の活動がスタートしました。その後、「Kobelco systems Women's Community」と改称しながら、「女性社員がイキイキ働き続けられる会社」をビジョンに据え、女性社員自身に対する啓発活動や会社に対するさまざまな提言を行ってきました。その結果、意識面での変化だけでなく、女性社員比率、女性管理職比率、男性も含めた育児休業者数が増加するなどの具体的な成果を生み出しています。また、女性社員がより一層能力を發揮しながら働き続けるためには、仕事と生活を自律的にマネジメントできる「ワークライフバランス」が不可欠であるという認識が高まってきました。そこで、2010年に「Kobelco systems Work-life balance Community」と改称し、女性社員のみならず男性社員も含めて「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに据え、ワークライフバランスに着目した新たな議論を展開しています。



コミュニティ活動でふたつのエンジン

変化が激しく、スピードが求められる時代になった現在、会社側からの施策展開だけでなく、社員の側からの施策提言が必要になってきました。お客様の声や社員一人ひとりの発想を受け止めて会社の動きに反映させる、当社の合言葉になっている「センス&レスポンド」が大事であると考えています。経営と社員の「ふたつのエンジン」で会社をドライブし、社員が自ら動き出す自律した自由闊達な風土・文化を醸成することが、コミュニティ活動の活性化の重要な目的です。

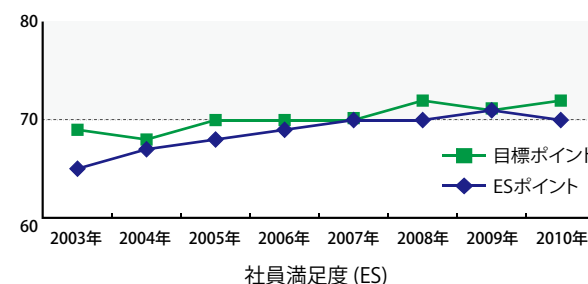
2010年に、社員が自発的に創設するコミュニティ活動を、会社として支援し、個人や会社の成長につなげていくために、コミュニティの枠組みを創設しました。全社コミュニティ活動とは、普段仕事上の接点の少ない社員が部門の枠を超えて接する場として、また、新たな視点からの発想や意見を交換する場として、個人や会社の成長に重要な活動と考えています。

現在、仮想化コミュニティと中堅社員によるES向上コミュニティが立ち上がりました。そして、さらにいくつかのコミュニティ活動が生まれつつあり、社員のエンジンが活性化されると期待しています。



社員満足度調査

「社員の満足なしにお客様満足(CS)の向上はありえない」という基本認識のもと、社員の満足度をマクロ的に把握するため、2001年から毎年、社員満足度(ES)調査を実施しています。ES調査は定量的に結果を把握する設問と、社員の生の声を確認できる設問から構成され、これらの結果は、「全員経営」を実現する手段として活用しています。また、ES調査結果で認識した課題は、中長期経営計画や単年度の実行計画、人事労務施策に反映しており、イントラネットや各種ミーティングの場を通じて社員にアナウンスしています。このようなPDCAサイクルをまわすことで、ESポイントも着実に上昇してきました。また、これまでの調査結果から、より一層のES向上には中堅社員のES改善が重要であることがわかりました。そこで、中堅社員を中心に新たな実効性のある施策の提言を目指し、全社横断のコミュニティ(中堅社員によるES向上コミュニティ)が2010年に発足しました。



家族と一緒にファミリーデー

年に一度のファミリーデー。2010年は11月6日に東京地区で、11月7日に神戸地区で開催されました。参加者数は両地区合計で1,050名。昨年に比べ300名の増となり、嬉しい戸惑いを感じました。神戸会場は、昨年と同様、神戸フルーツフラワーパーク。午前中は「ファミリー運動会」、お昼は和気あいあい「バーベキュー」、午後からは3グループに別れて「買い物」「遊園地」「木下サーカス」を楽しみました。

東京会場は、品川アクアスタジアム。午後からの開始で、「アクアスタジアム自由見学」、「アシカショー」、そして夕食は全員揃っての「ステーキ食べ放題」を楽しみました。両会場とも満足一杯の一日となりました。

このファミリーデー、「社員同士の一体感の醸成」「私達を支えてくれる家族への感謝」をテーマに開催され、今年で3回目を迎えました。社員、ご家族の認知度・期待度も高まっています。



社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である

～3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現～

③ 未来の社員になる人たちから、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

第2回ひょうご仕事と生活のバランス企業を受賞

コベルコシステムは、2010年に「第2回ひょうご仕事と生活のバランス企業」を受賞しました。

これは、兵庫県が連合兵庫、兵庫県経営者協会との協働により設置した「ひょうご仕事と生活センター」が、多様な働き方の導入や仕事と家庭生活の両立の促進など、仕事と生活のバランス実現を推進するために先進的な取り組みをしている企業・団体等を「ひょうご仕事と生活のバランス企業」として表彰しているものです。コベルコシステムは、社員による全社横断の自主活動であるKWC活動を通じての啓発活動の展開、社員満足度調査の継続実施、3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現に向けたさまざまな取り組み、ワークライフバランスの充実をサポートする制度の整備が評価されました。この受賞をゴールとして捉えるのではなく、新たなスタートラインとして位置づけ、より一層「ワークライフバランス」の実現に取り組み、社員一人ひとりがさらにイキイキと光り輝く会社を目指します。



こうべ男女いきいき事業所



神戸市では、男女がともに働きやすい職場づくりに向けて、就業の場における男女平等の推進やワークライフバランスの推進、その他ユニークな取り組みを積極的に行っている神戸市内の事業所を「こうべ男女いきいき事業所」として表彰しています。コベルコシステムは、社員による全社横断の自主活動であるKWC活動を通じて女性社員の能力活用・登用を促進していること、男性の育児休業取得者の体験談を社内広報することで男性の育児休業取得を積極的に推進していることが評価され、2009年に「こうべ男女いきいき事業所」を受賞しました。「ひょうご仕事と生活のバランス企業」も含め、全社的な施策展開に加えて、社員の自主活動や現場での工夫やアイデアが受賞につながったと考えています。

育児休業が男女を問わず定着してきました

少子高齢化が進展する中で、コベルコシステムは、企業市民としての社会的責任を強く認識し、次世代法を精神を汲み取った仕事と家庭の両立、中でも子育て支援に積極的に取り組んでいます。

コベルコシステムでは、女性社員の育児休業は当たり前のこととして定着した感があり、また2009年に認定マーク「くるみん」を取得して以降、男性社員の育児休業も違和感なく始まっています。

子育てを職場が一体となってサポートする意識や風土をさらに醸成していくため、子育てについて理解を深める学びの場の機会提供や、コベルコシステムの社風や業態に合わせた支援制度の拡充を一步ずつ着実に進めています。

ワークライフバランス向上の観点からも、子育て支援に限らず、これから増加が予想される介護と仕事を両立する社員にも、利用しやすい支援制度づくりを目指しています。



社員の声

KCP認定制度の最上位のSuperiorに認定されたビジネスソリューション開発本部 加藤浩司さん

これまでの仕事で、同業他社からも見に来ていただけた通信大手のコールセンター立ち上げは思い出深い仕事です。経営統合により、途中でプロジェクト自体がなくなるという経験もありました。また、誰もが苦戦を強いられたM様のプロジェクトをなんとか完了させ、その後、大手通販会社様のプロジェクトにも関わりました。

このように、実際のプロジェクトで経験を積む中で、自分たちの会社の弱点や強みを仕事の中で学ぶことができました。PMの経験を積んで来た人であれば、ある程度PMのツールを使いこなすことはできると思います。しかし、実際のプロジェクトには「人」の要素、特に「コミュニケーション」の要素がとて大切で。

これまで、中堅PMが壁を破ってベテランと呼ばれるようになるために、自分たちに何ができるかを考えてきました。この認定を契機として、自分たちがこの先どこを目指すのか、次のステージを考えていきたいと思っています。



※ KCP認定制度: p.20参照

APマスター認定制度で初のプラチナに認定されたビジネスソリューション開発本部 久安雄造さん

私は、メーカー様の設計情報や生産管理のシステム開発を主に担当して来ました。

私たちの仕事は、短期間にお客様の業務や課題を理解し、一緒に課題を解決していくことだと思います。

そのためには、システム開発の経験だけでなく、「業務知識の習得」や「業務改善の動向などを知っていること」が重要です。APマスターの資格は持っていないでもお客様のシステム開発を担当できますが、お客様の要求以上、より品質の高い仕事を行うために、体系的に業務知識を整理する機会と捉え、認定の取得にチャレンジしました。プラチナ認定は、良い上司や先輩、仲間、仕事に恵まれて、いろいろな経験と業務知識を習得させていただいたおかげと感謝しています。生産管理は広く深い世界ですので、まだまだ学ばないといけないことがたくさんありますから、今後も精進していきます。また、これを機会に社内のAPマスターのコミュニティ活動などを通じて、情報の交換や発信を行い、少しでも社内の業務知識や対応力の向上のお役に立ちたいと思っています。



※ APマスター認定制度: p.20参照

2010年入社のERP本部 中川摩耶さん

私は文系出身だったこともあり、入社前は「この業界でやっていけるのだろうか」という不安が一層強くなりました。しかし新しい知識や概念を学ぶことは大変楽しく、入社当初から毎日充実した会社生活を送っております。

新人研修中はIT知識やアルゴリズムの習得に時間がかかり、配属後のプログラミング研修でも先輩につきっきりで指導をいただくなど、技術的な面では頭を悩ませることも多々ありました。それでも私が一度も挫けず業務に励めるのは、上司、アドバイザーをはじめ諸先輩方、協力会社の方々、そして同期の支えや励ましがあるからです。この会社は文系・理系などの垣根なく、本人が明確な目標を持ち積極的に取り組むことで、「一人ひとりが内に秘めた可能性を最大限に生かすことができる環境」だと実感でき、自分自身のモチベーションをより一層高めることができます。今後も日々の業務に加え、以前から興味のある語学の勉強にも精一杯力を注ぎ、基礎的な業務知識やマナー、スキルを身につけ、一日も早く一人前のSEIになるべく日々尽力して参りたいと思っています。



育児休業を2度取得されたERP本部 渡邊誠さん

私は9歳～0歳までの5人の子供に恵まれ、妻も仕事を持っているため、3人目と5人目の出産時にそれぞれ1ヵ月半の育児休業を取得しました。休業中は、上の子供達の地域サークルや幼稚園で母親の友達が多数できたり、主婦の視点が理解できるようになったりしましたが、同時に家事の大変さもよくわかりました。共働きのお母さんは本当にすごいと思いますし、子育てもしている女性社員を見ると、頭が上がらないと思います。

育児休業をとることで、仕事に対する考え方の整理ができました。長い社会人としてのキャリアの中で、たった1ヶ月や2ヶ月休んでも、キャリアへの影響は少ないと考えられるようになり、逆に仕事を離れることでリフレッシュでき、復職後もバリバリ仕事をできていると思っています。

育児休業中は給与の50%の育児休業給付金が支払われますが、その支給は2ヶ月に1回であり、共働きでない夫婦の場合、育児休業の取得の難しさは無給期間の存在だと思うので、前借り制度などがあればありがたいと思います。

また、育児休業は一人目の時にこそ取っておけばよかったという気付きがありました。その方が、妻の不安等を払拭できて良かったのではないかと思います。昔と違って核家族が進み、母親の負担は想像を遥かに超えています。ぜひ、会社で推進していただきたいと思っています。



当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して企業市民として社会への貢献を確実に実行する

① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します

アニメーション神戸 コベルシステム賞

コベルシステムでは、地域貢献活動の一環として、2007年から「アニメーション神戸」に協賛し「Webアニメコンテスト」に「コベルシステム賞」を設けています。「コベルシステム賞」2010年のテーマは「秘伝!」コベルシステムでは「こだわり」「ノウハウ」「スキル」により熟成・進化してきたものを「秘伝のタレ®」としてお客様に提供していますが、今回はこの「秘伝のタレ®」になぞらえ、「私の秘伝」「我が家の秘伝」などいろいろな「秘伝」をテーマに作品を募集しました。最優秀作品は、コベルシステムのホームページや各種イベントで紹介しています。

※アニメーション神戸：神戸市とアニメーション神戸実行委員会では、アニメーションという文化とデジタル技術の融合を通じて、デジタル映像を中心とするICT関連産業の振興・集積を図るため、全国的なデジタルコンテンツ振興の動きに先駆け、神戸地域の情報化を推進するシンボルとして、平成8年度から「アニメーション神戸」を開催しています。
「アニメーション神戸」では、「anime」として世界的に高い評価を受けている国内の商用アニメーションについて、優れた作品やクリエイター、また長年にわたってアニメーション業界に貢献した方などを表彰する「アニメーション神戸賞」各賞の授与を行う一方、地域の教育機関の学生等による作品制作を奨励しており、多くの方が手軽にアニメーション作りを体験できる場としての「Webアニメコンテスト」、プロとして活躍する監督等のアドバイスを受けられる「デジタル・クリエイターズ・コンテスト」、さらに第一線で活躍するプロの技を直伝する「実践型ワークショップ」などを通じて、未来のコンテンツ・クリエイターとなる人材の発掘・育成を行っています。

■第15回アニメーション神戸 コベルシステム賞

テーマ **秘伝**
タイトル:「母さんの秘伝」 ペンネーム:コベ-1(こべわん)さん



■優秀賞 (作者名はすべてペンネーム)

| タイトル: | ペンネーム: |
|---------------------|---------------|
| ・「サラ忍マン」 | 秘密結社シノビ03さん |
| ・「警察vs宝石店強盗~秘伝の宝石~」 | 宝石堂さん |
| ・「我が家の秘伝」 | grakenさん |
| ・「SOS」 | “秘密のかっこ”ちゃんさん |

今までのコベルシステム賞受賞作品

■第14回アニメーション神戸 コベルシステム賞

テーマ **夢をかなえる!**
タイトル:「夜空にツバサ」 ペンネーム:ひろさわさん



■第13回アニメーション神戸 コベルシステム賞

テーマ **緑を守ろう!**
タイトル:「グリーンハート」 ペンネーム:Yuiさん



■第12回アニメーション神戸 コベルシステム賞

テーマ **感謝の気持ち、ありがとう**
タイトル:「“ありがとう”を届けます」 ペンネーム:リタさん



地域ICT産業の振興に貢献

コベルシステムは、関西経済同友会、兵庫工業会、神戸商工会議所情報産業部会、兵庫ニューメディア推進協議会、地域ICT推進協議会(COPLI)等の地域団体に加入し、地域情報サービス産業の振興や地域の情報化を支援してきました。

中でも、「神戸マルチメディア・インターネット協議会」と「阪神・淡路マルチメディア産業交流会」の統合により、2007年4月に発足した地域ICT推進協議会は、情報通信技術(ICT)の利活用を通じた地域の活性化に向け幅広い活動を展開していますが、コベルシステムは役員や委員会活動への参画を通じて地域の活性化に貢献しています。

インターンシップの受け入れ

人材育成と社会貢献の観点からインターンシップを受け入れています。参加者からは「社会人になるための心構えができた」、「社会にITがどのように役立っているかを理解することができた」等の感想をいただきました。



●インターンシップ

2010年は、工業高等専門学校(専門学校)の学生6名をインターンシップとして受け入れ、ビジネスマナー研修やOB・OGの仕事体験談、製鉄所見学、先進技術演習等を行いました。

●留学生インターンシップ

ひょうご大学連携協議会の「アクティブ・ラーニング型学生派遣プログラム」として、2010年は、春と夏に合わせて14名の留学生をインターンシップとして受け入れ、知的財産、ITにおける品質保証、プロジェクト管理等の教育や、製鉄所見学、先進技術演習等を行いました。



その他の地域貢献・社会貢献

●アビリンピック

2003年から全国障害者技能競技大会(アビリンピック)を支援しており、AutoCAD種目におけるソフトウェアの貸し出し、導入支援や大会当日のサポート等を行っています。

●スポーツ振興協賛

NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。

●大規模地震災害援助金

1995年1月の阪神・淡路大震災の被災企業として、国内外の大規模地震の被災地に対して義捐金を送っています。

●地域イベントへの協賛

寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

●書籍の寄贈

環境絵本『海と空の約束』(作・西谷寛、絵・有村綾 神戸新聞社MOOK)を神戸市内の各小学校・幼稚園に贈呈しました。

●ペットボトルキャップ収集

世界の子供にワクチンを送る「エコキャップ運動」に参加しています。

② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

コベルコシステムでは、2007年に環境保護に関するトップ方針を定めて活動してきましたが、その後の社会環境の変化や、コベルコシステムにおける環境保護活動の状況に合わせ、2010年にコベルコシステム環境保護方針として見直しました。

コベルコシステム環境保護方針

私たちコベルコシステムも、地球温暖化に代表されるさまざまな環境問題に関心している訳にはいきません。企業の社会的責任を果たすため、経済的な付加価値の向上やコンプライアンス遵守のみならず、持続的な発展に向けた社会や環境に対する責任ある行動を社員一人ひとりが実践していきたいと考えています。

イメージキャラクター「Kocoroちゃん」(注)とともに、クリーンハイクや「森の世話人」活動などの自然環境保護活動を推進していきます。また、日常の業務を遂行する中で自らの職場における環境負荷低減に取り組むと共に、IT企業としてさまざまな製品・サービス・ソリューションをお客様にお届けするにあたって環境に配慮し、よりスマートな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

今後、環境目標の設定や活動計画の立案とその推進を通じて、地球にやさしい企業になるよう全員で取り組んでいきます。



※「Kocoroちゃん」：第12回アニメーション神戸の協賛事業として、コベルコシステムの自然環境保護活動に使用するイメージキャラクターを募集し、選定しました。作者の製作意図は「六甲山の自然環境を守る帽子をかぶった、キャラクターが清掃活動をしているところ」です。KocoroのKoはコベルコシステムのKo, roは六甲山のroです。Koとroを結ぶcolは、協力を意味するcollaboration、共存を意味するcoexistenceからとりました。Kocoroには、コベルコシステムと六甲山が「永遠にともに」という願いが込められています。また優しい「心」を持ち続けたいとの想いも含んでいます。



NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」様のご協力により、神戸・六甲山の自然を紹介したパンフレットやカレンダーを作成・配布しています。2010年までに、以下のようなパンフレット・カレンダーを作成・配布しました。

- 「六甲山花百選」パンフレット
- 「六甲山木の実・草の実」パンフレット
- 「神戸・六甲山系の蝶と食草」パンフレット
- 「六甲山のツツジ」パンフレット
- 花クリアファイル
- 神戸・六甲山の花々カレンダー (毎年制作)

また、神戸・六甲山の花々カレンダーの裏表紙では、コベルコシステムの植樹会や「クリーンハイク&森の世話人」活動を紹介しています。

「森の世話人」活動 “Kocoroちゃんの森”

コベルコシステムは六甲山の森を守り育てる活動である「森の世話人」活動に賛同し、2010年から六甲山の前山のひとつである金鳥山(神戸市東灘区)の南側の森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

「森の世話人」活動は、社員・OB・関係者およびその家族により、林内の整理(ネザサ刈り、常緑樹の伐採)、倒木・腐朽木の除去、調査・観察会等の活動を、クリーンハイクと合わせて年に3~4回実施し、地元六甲山の森づくりに貢献しています。また、活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」様のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年の「クリーンハイク&森の世話人」活動実績

| 回 | 実施日 | 参加人数 | クリーンハイクルート | 「森の世話人」活動 |
|-----|------------|------|------------------------|---------------|
| 第1回 | 2010/03/13 | 30 | Kocoroちゃんの森→五助堰堤→住吉台 | ネザサ刈り |
| 第2回 | 2010/05/15 | 43 | 甲南山手→魚屋道→Kocoroちゃんの森 | 植生調査 ネザサ刈り |
| 第3回 | 2010/11/23 | 15 | 岡本八幡→保久良梅林→Kocoroちゃんの森 | ネザサ刈り |



●「森の世話人」活動

国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進する「六甲山系グリーンベルト整備事業」の一環として、企業や市民団体が森林の維持・整備活動をボランティアで実施する活動です。

●Kocoroちゃんの森

「森の世話人」活動では、活動地の森林に対して命名することができます。そこで、コベルコシステムの自然環境保護活動のイメージキャラクター「Kocoroちゃん」を森の名前に命名しました。

社員の声

管理部 市岡善一さん

コベルコシステムがある神戸は、山と海に囲まれたとても自然豊かなところ。私も幼いころから六甲山へ登ったり、沢にカニや小魚をよく採りに行きました。今回参加した活動は、山林に生えたネザサを刈る作業ですが、さすがに運動不足の私にとっては腰が痛く大変な作業でした。でも汗をかいた後で、六甲の美味しい空気を思いっきり吸いながら、みんな

で食べるお弁当は最高です。また、異なる職場の方との出会いもあり、良いコミュニケーションの場となっています。日頃、六甲の自然を守っていくために多くの方が努力されており、自らこのような活動に参加することで環境保護の大切さを感じ、この自然を後世まで引き継いでゆく義務があると思います。コベルコシステムはこのような環境保護活動に積極的に参画しており、その一員として参加できることを嬉しく思います。



有馬温泉でヤマアジサイの植樹



2007年11月、設立20周年を記念し、有馬温泉癒しの森と兵庫県立六甲山自然保護センターで植樹を行いました。以後、六甲山に自生するヤマアジサイを許可を得て初夏に採集し、社員有志が挿し木で4ヵ月間丹精こめて育てた苗木を晩秋に有馬温泉癒しの森に植え戻す植樹会を毎年実施しています。2010年も7月上旬に採集したヤマアジサイを11月下旬の植樹会にて有馬温泉癒しの森に植え戻しました。2010年は、採集後の刺し穂に発根促進剤を与えたものを鉢植えにして社員有志に配布するなど、それまでより少し準備段階のやり方を変えてみた結果、2009年までよりも生育する挿し穂が少し増加したようです。

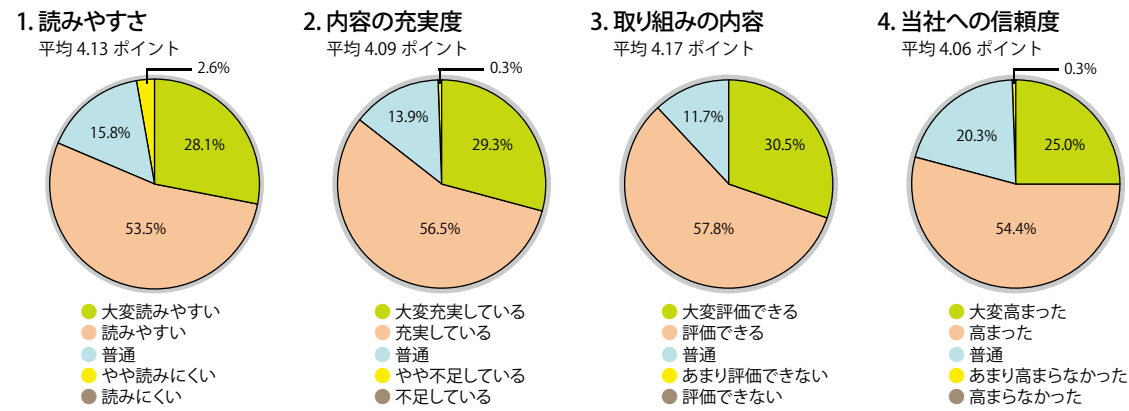
2011年も、より多くの挿し穂が育つように、ヤマアジサイの育て方について学習し、工夫していきたいと考えています。

コベルコシステム CSRレポート2010年版アンケートフィードバック

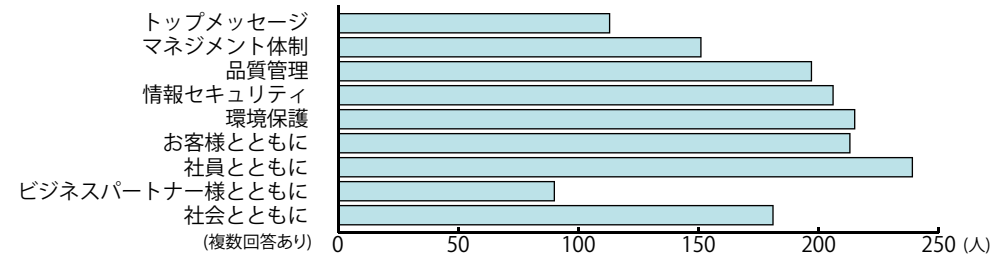
2010年版コベルコシステムCSRレポートでコベルコシステムのCSR経営の状況をご紹介させていただきました。コベルコシステムのCSRレポートを読んでいただいたステークホルダーの皆様から寄せていただいた貴重なご意見や感想を纏めて報告させていただきます。

■アンケート結果(抜粋)

Q1. CSRレポートをお読みになった感想



Q2. CSRレポートで、ご関心を持たれた項目



Q3. CSRレポートをどのような立場でお読みになりましたか。

※ Q3の結果については「社員・家族」を除外させていただきました



Q4. CSRレポートの内容で、足りない点や改善したほうが良い点

- 幅広い内容を網羅しており、興味深いですが、全体を通して何を伝えたいのかが少しわかりにくい。
- サマリなページがあると良いのではないかと。
- 文字が多いので読みにくい。もっと写真や図などを多くしてもよいのではないかと。
- 社員の声を掲載するとよいと思う。
- 「従業員の声」や「社外からの評価」を紹介すれば、変化が出て良いと思う。
- さまざまな取り組みを行っているが、その効果が見えにくいのではないかと。

Q5. CSRへの取り組みに関するご意見・ご要望

- 継続すること、改善することが大事だと思う。
- 環境問題にも配慮した地域の活動が評価できる。できれば、もっと多くの社員が参加する活動にしていればよいと思う。
- 企業の社会的責任を果たすべく努力していると思う。企業としてきちんと取り組んでいる姿勢がよい。
- 環境保護活動は重要な活動であり、回数を増やすことも検討してはどうか。
- CSRは「やって当たり前」の活動ではあるが真摯に取り組むべきことでもあり、今後も質的な向上ならびに啓蒙を。
- 社会貢献や地域貢献のための活動が少し物足りないのではないかと。もっといろいろな社会貢献ができるのではないかと。

改めて、アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

ステークホルダーの皆様からいただいた貴重なご意見をできる限り反映して、CSRレポート 2011 を編集いたしました。CSRレポート 2011 が、ステークホルダーの皆様へのコベルコシステムのCSR推進活動をご紹介するためのものに留まらず、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの手段になるよう努力いたしました。コベルコシステムは、これからもステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指してCSR活動を推進していきます。本年度もCSRレポートを読んでいただき、別添いたしましたアンケートにて皆様のご意見、ご感想をお聞かせいただけましたら幸いです。

取得済の認証・認定



●登録範囲:
ハウジングサービス及びセキュリティ運用管理サービスにかかわる情報資産のセキュリティを保護するための情報セキュリティマネジメントシステム

●ISO9001適用部署:
ERP本部・ビジネスソリューション営業本部・ビジネスソリューション開発本部・ICTソリューション本部
●登録活動範囲:
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。本レポートは、すべてCSR推進委員会のメンバーが、それぞれの担当分野について、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて作成いたしました。

今回は、昨年のCSRレポートに対するステークホルダーの皆様からのご意見を反映し、より読みやすく構成することを心がけました。今後もさらにCSR活動を強化していきながら、本レポートの内容も充実させていきます。

なお、添付のアンケートまたはWebのCSRアンケート入力画面から忌憚のないご意見をいただきましたら幸いです。

Webアンケート入力画面：<http://www.kobelcosys.co.jp/csr/questionnaire/>

本レポートの内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。
コベルコシステム株式会社 経営・人財企画部 総務グループ CSR担当
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町2丁目11-14(神鋼ビル ネオエスト6F)
TEL : 078-261-7531 FAX : 078-261-7520

